

1 はじめに

本校では、生徒の自主的・実践的な態度の育成や、集団活動を通してより良い人間関係の育成を図ることを目標として積極的な特別活動を推進してきた。昨年度まで、多賀中学校ではSNS禁止というきまりがあったが、生徒の中から「生活を便利にするために使いたい」「時代遅れなのではないか」という意見が出てきた。今年度の生徒会役員会は、今までの校則の見直しをすることを重要項目として活動を行った。

2 資料

(1) 生徒総会での校則の見直し

ア 議題決定のためのアンケート

目安箱を設置し、生徒が学校生活でどのようなことに不満をもっているのかアンケートを行った。各学級を生徒会役員が訪れアンケートへの協力を呼びかけたこともあり、90枚のアンケートへの協力があった。アンケート期間終了後、生徒会役員会で集計を行うと、「SNSを使えるようにすべき」という内容が最も多かった。そこで、生徒会役員会で協議を行い、今年度の生徒総会の全校討論での議題は「SNSの解禁についてどう考えるか」というものになった。

イ SNSに関するルール作り

SNSの種類やメリット・デメリットについての話を担任が行い、ある程度の知識をつけた状態で、学級ごとに議題に対する話し合いを行った。「自分の所有物であるので、自由に使えるようにすべき」「不自由していないし、いじめの温床になるので解禁しなくて良い」「条件付きで可とする」など、様々な意見が学級で飛び交った。



ウ Meet を用いたリモート討論

司会者を立て、全校でリモート討論を行った。各学級が議題に対する立場と理由を述べた後、他学級の意見への質問や意見の補強を行った。予定していた時間を超過するほどに討論は白熱したが、「ルールを決めた上で使用可とする」という意見に落ち着いた。ルールについては中央委員会で話し合い、全校生徒への提案の後、決定となった。



3 成果と課題

- 目安箱に投函された「SNSを使えるようにすべき」というアンケートから始まって、学級・全校で話し合いを行い、学校全体での合意形成が図れたことは生徒にとって自主的・実践的に考え、行動する原動力になった。
- 生徒にとっては自分たちで決めたルールなので、守ろうという意欲が高まった。
- 生徒がリモート討議を円滑に行うための指導や教員に対する研修など、当初予定していなかったことに時間や労力がかかった。教育効果と労力のバランスを取りながら、次年度につなげていきたい。